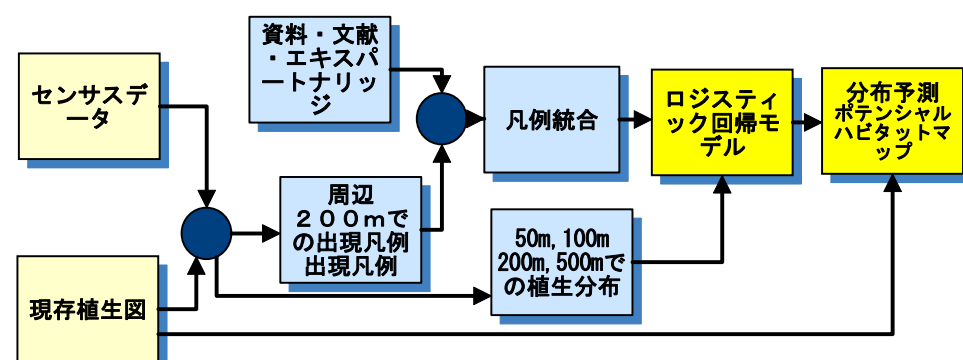


目的：第6回現存植生図の利用の可能性を検討する。

- 動物の生息環境という視点から植生を考える。
- ハビタットスケールと解析メッシュについて検討する。
- ランドスケープの複雑度を捉える指標をさがす。

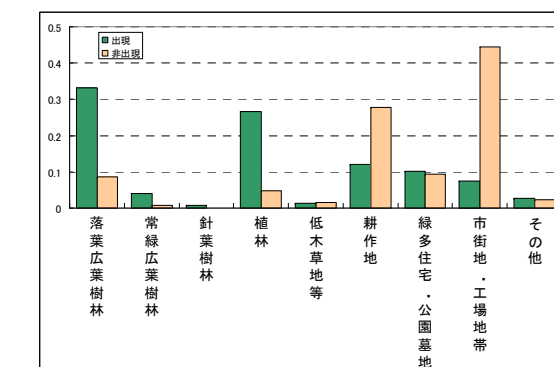
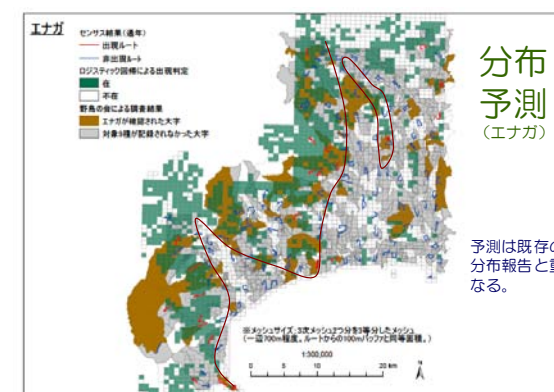
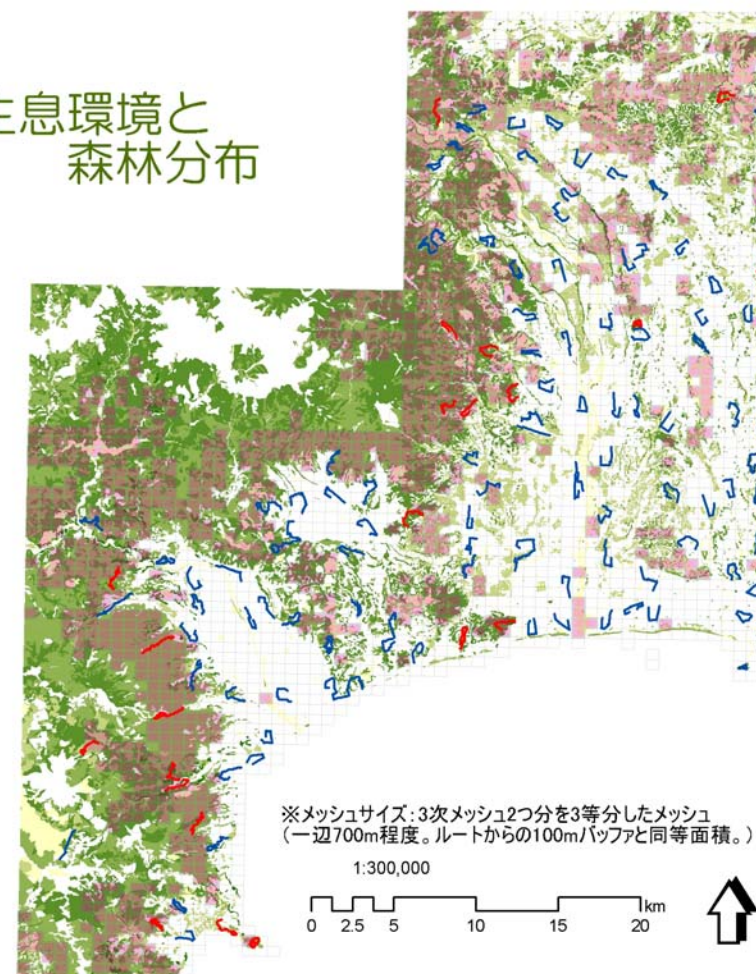
現存植生図の活用（１）

移動性が高く環境の指標となる種 鳥類



エナガの生息環境と森林分布

センサス結果（通年）
 出現ルート
 非出現ルート
 ロジスティック回帰による出現判定
 在
 不在
 エナガの選択する環境
 常緑広葉樹林
 落葉広葉樹林
 植林
 緑の多い住宅地・公園墓地
 その他



現存植生図の活用（２）

移動性が低く複数の環境を利用する種 両生類

16年度調査の結果

相模川流域

シュレーゲルアオガエルの生息条件

- 水田と樹林の隣接
- 一定の規模以上の樹林
- 早い時期の田圃への引き水



相模川流域でシュレーゲルアオガエルの生息地は極めて限られている。

神奈川県：減少種（準絶滅危惧種）



繁殖が確認された水田に比べ、コアとなる樹林が少ない。

千葉県佐原市

隣接線から分布範囲を調査

樹林地から一定の（およそ200m）の範囲に分布
水路や道路で移動が妨げられている

